

NINA

—物質化する生け贄



そこにいるだけで凄まじいエネルギーを放ち、目を離すことができない身体を見た事があるだろうか
世界が認めた Noism の代表作、再び！

演出振付：金森穰

音楽：トン・タツ・アン 衣裳：廣川玉枝 (SOMA DESIGN)

椅子：須長檀 オリジナル照明デザイン：金森穰、森島都絵

リハーサルディレクター：井関佐和子

出演：Noism1

中川賢、池ヶ谷奏、吉崎裕哉、浅海侑加、チャン・シャンユー、坂田尚也、井本星那、
鳥羽絢美*、西岡ひなの*、山田勇氣 (特別出演) *準メンバー

【韓国・大邱公演】 2017.10.22 (日) Daegu Arts Center (Palgong Hall)

【中国・杭州公演】 2017.11.8 (水) ~ 9 (木) Zhejian Concert Hall

【香港公演】 2017.11.24 (金) Kwai Tsing Theatre

【新潟公演】 2017.12.15 (金) ~ 17 (日) りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館(劇場)

【埼玉公演】 2018.2.17 (土) ~ 18 (日) 彩の国さいたま芸術劇場(大ホール)

INTRODUCTION

作品について

世界 8 か国 18 都市で喝采を得た Noism の代表作、 衣裳も新たに 9 年ぶりの日本凱旋！

2004 年より、新潟を拠点に活動を続ける Noism。設立から 10 年以上経過した今なお、日本で唯一の公共劇場専属舞踊団として、芸術監督・金森穰率いるカンパニー活動と、舞踊家達の圧倒的な身体によって生み出される作品は国内外で高い評価を得ています。メインカンパニー Noism1 の 14 年目のシーズン前半は、Noism 初期の代表作『NINA - 物質化する生け贄』を東アジア 5 都市で上演します。

『NINA』は Noism 設立 2 年目の 2005 年に、「舞台における舞踊家の身体とはどのような“状態”であるべきか」を模索し、“普遍的な強度を持った身体”を追求することで生まれた作品です。

極度の集中によって、血の通わぬマネキンのように存在する舞踊家達の姿が強烈な印象を残す本作は、他に類を見ない強靱な身体と精神性を明確に提示し、舞踊界に大きな爪痕を残しました。

’07 年にはカンパニー初の海外公演へ繋がり、これまでに 8 개국 18 都市で上演。様々な環境の劇場と観客の前で上演されるなかで、限りなく削ぎ落とされ、作品としての強度を高めていきました。

そして、NINA の核となる「絶対的集中力を放つ身体と、それを可能にする極度な精神性を持った専門家集団」という考えは、舞踊の専門家集団である Noism の在り方を貫く理念となっています。

’10 年パリ公演以来 7 年ぶりとなる今回の再演では、SOMARTA デザイナーの廣川玉枝を迎えて衣裳を一新。カンパニーのこれからを担う若手を中心としたメンバーが出演します。

踊り継ぐことで深化を続ける『NINA』の新章開幕です。

2005 年初演時演出ノートより

我々舞台人がそもそも観られること、観せることを前提にした行為を行うとき、身体を物質として観られることは避けずには通れない道である。すなわち身体の物質化を肯定することによって生まれる身体の虚構性、表現の虚構性、動きに宿る感情の虚構性こそ、舞台という虚の場で生まれるものである。舞台上に生きる人が人となるためには、観客の中でこそ人となるべきである。人であって物である、人となるために。そして舞台人はその虚構のために物質化することを受け入れた、誇り高き生け贄となる。

金森穰

Director's Comment

金森 穰

この度 7 年ぶりに『NINA－物質化する生け贄』を再演することとなった。7 年前の公演はパリであったから、国内では実に 9 年ぶりのことである。初演から 12 年経った今回は、次世代の『NINA』をイメージして SOMARTA の廣川玉枝さんに新しい衣裳デザインをお願いした。

この作品を創作した時の記憶は、今も鮮明に脳裏に焼き付いている。それが再演を重ねるたびに想起することによるものなのか、あるいは創作体験そのものが特殊であったのかは、私自身にもわからない。ただ一つ言えることは、この作品が振付家・金森穰にとって重要な作品であり、Noism にとっては欠かすことのできない作品であるということである。

折に触れて話していることだが、『NINA－物質化する生け贄』の創作において探求された身体性が、Noism 独自の訓練法「Noismメソッド」を考案した際の要諦となっている。“床との関係性（旋回と拮抗）によって身体に張りを生み、そうして生み出されたエネルギーを空間に放射する”ということ。これはいくら弁舌を尽くしても言葉で説明し切れるものではない。なぜならそのエネルギーとは、非日常的で高度な集中（身体コントロール）によって創出され、観客が皮膚レベルで感知する動物性エネルギーのことだからである。

我々人間がヒト科の動物であることは自明である。しかしでは、動物と人間の境界はどこにあるのか。心理学者にいわせれば「自分を客観視することができる」というかもしれない。言語学者であれば「概念を記号化することができること」というかもしれない。あるいは社会学者にいたっては「友敵理論に基づいた国家を構想する」となるかもしれない。いずれにせよそれら全ては脳の産物であり、我々は脳（ヒト科）と肉体（動物）とを分けて“考える”ことができる故に、人間であるということができるだろう。

自らの肉体を客観的に物質として扱うこと。あるいは概念やエネルギーといった不可視のものを、その肉体によって可視化すること。はたまた支配・被支配の関係性や性差の問題について、不特定多数の他者に問いを投げかけること。そして何より、それらを集団による圧倒的な動物性エネルギーの放射によって表現すること。それが『NINA－物質化する生け贄』という作品である。

この度の新キャストによる再演が、その力を余すことなく発揮することを願っている。なぜならその成否が、これからの Noism の行方を暗示するものとなるからである。



Photo:Kishin Shinoyama

金森 穰 Jo KANAMORI

演出振付家、舞踊家。りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督／Noism 芸術監督。

17 歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ルードラ在学中から創作を始め、NDT2 在籍中に 20 歳で演出振付家デビュー。10 年間欧州の舞踊団で舞踊家、演出振付家として活躍したのち帰国。2004 年 4 月、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。近年ではサイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。14 年 6 月より新潟市文化創造アドバイザーに就任。平成 19 年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成 20 年度新潟日報文化賞ほか受賞歴多数。www.jokanamori.com

Points of “NINA”

『NINA』が描く身体と精神

「舞台における身体とはどのような“状態”であるべきか」を模索するなかで、身体そのものの「普遍的な強度」を追求し、生まれた作品がこの『NINA』である。

生身の人間でありながら極度の集中によって、血の通わぬマネキンのように「物質」と化して踊る姿が強烈な印象を残す。

凄まじいエネルギーを放つ身体が、言葉にならない様々なイメージを想起させると同時に、その身体を貫く舞踊家達の精神の在り方も映し出し、「Noism の精神と身体を象徴する作品」として名実ともに Noism の存在を明示した初期代表作。



Photo : Kishin Shinoyama

Noism メソッドの出発点として

『NINA』が誕生した時から、金森は「絶対的な集中力を放つ身体と、それを可能にする極度な精神性を持った専門家集団 = Noism」として、カンパニーの在り方を明確に宣言していた。その考えは今も変わることなく Noism を Noism たらしめる理念となっている。そして、この「NINA」を機に追求を始めた身体理論は、独自のトレーニング「Noism メソッド※」の出発点となり、現在ではカンパニーを支える大きな柱となっている。



Photo : Ryu Endo

※Noism メソッド・・・金森穰が考案した“張りのある身体”を養うためのトレーニング。膝・骨盤・肋骨・肩・肘・手首・指先・恥骨・仙骨など骨及びそれを包み込む皮膚といった、身体の内側と外側を同時に意識しながら、高い集中力で各部位を多方向にスパイラルさせることで全身に「張り=拮抗」を生みだす。それは弛緩した現代人の身体が失って久しい、高い動物性エネルギーの創出を可能にする。

世界各地を巡り、より深く、強い作品に

’05年の新潟初演後、’07年にはNoism初の海外公演にもつながった本作。世界各地の様々な環境の劇場で上演するなかで、削ぎ落とした演出の「ver.black」が誕生。これまでに8カ国18都市の様々な文化環境のなかで上演し、常に喝采を受け続けてきた。今回は、’10年のパリ公演以来7年ぶり、国内では9年ぶりの上演となる。

集団として、踊り継ぐ

舞踊家にとって、『NINA』は精神的にも肉体的にも自らの限界に向き合う作品である。'05年の初演以来、歴代メンバーによって踊り継がれてきた Noism の登竜門的作品であり、メンバーのあいだでは『NINA』を踊って初めて Noism の舞踊家になる」と言われるほど。

今回の再演では『NINA』オリジナルキャストである副芸術監督の井関佐和子は出演せず、リハーサルディレクターとしてメンバーの指導にあたる。Noism の古典ともいえる本作を踊り続けることで、一人の舞踊家が見出した精神的・肉体的な世界を、次の世代へ受け渡していく。

井関からのバトンを継いだ舞踊家たちが、カンパニーの未来をどのように担っていくのか。活動 14 年目を迎える Noism という集団として、“身体知”を受け継いでいくために必要不可欠な時間である。



Photo : Kishin Shimoyama

井関佐和子

廣川玉枝が手がける、新たな衣裳

7 年ぶりの上演にあたり、衣裳をリニューアル。新たな衣裳を手がけるのは、最新のデジタルテクノロジーを駆使したクリエイションを行うファッションブランド「SOMARTA (ソマルタ)」の廣川玉枝。ブランドのコンセプトである“第二の皮膚”に象徴される、無縫製ニットの「Skin」シリーズの進化系で、NINA の世界を創作する。



Photo : Ryu Endo

東アジアツアー + NIDF2017 参加作品

今回は 10～11 月にかけて、大邱（韓国）・杭州（中国）・香港の東アジア 3 都市を巡り、12 月に新潟、翌年 2 月に埼玉公演を予定。国内公演は東アジアツアーを経た凱旋公演となる。

また、「新潟国際ダンスフェスティバル 2017 (NIDF2017)」の参加作品にも位置付けられている。金森穰がアーティストディレクターを務めるこのフェスティバルは、Noism と同じく、東アジアの各国で行政と連携しながらプロフェッショナルな活動を続けている 3 つの舞踊団が集結。他の舞踊団の作品と見比べることで、『NINA』の描く身体が、東アジアの身体文化とどのように呼応するのかにも注目してほしい。



上演履歴

2005 * (full ver.)

- ・りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 (Japan)
- ・富山市芸術文化ホール オーバード・ホール (Japan)
- ・梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ (Japan)
- ・札幌市教育文化会館 (Japan)
- ・新国立劇場 (Japan)
- ・仙台市民会館 (Japan)
- ・静岡芸術劇場 (Japan)



2007 * (simple ver.)

- ・Centro Cultural Matucana 100, Santiago (Chile)
- ・Joyce Theater, New York (USA)
- ・The Dance Center of Columbia College, Chicago (USA)
- ・SESC Pinheiros, Sao Paulo (Brazil)
- ・The Meyerhold Centre, Moscow (Russia)



2008 * (ver.black)

- ・The John F. Kennedy Center for the Performing Arts, Washington, D.C. (USA)
- ・Power Center of University Musical Society, Michigan (USA)
- ・LG Arts Center, Seoul (Korea)
- ・りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 (Japan)
- ・横浜赤レンガ倉庫1号館 (Japan)



2009

- ・National Chiang Kai-Shek Cultural Center, Taipei (Taiwan)



2010

- Maison de la culture du Japon a Paris, Paris (France)



Photo : Kihin Shinoyama

プロフィール

トン・タツ・アン An Tôn Thất | 音楽

1970 年パリ生まれ。ヴェトナム系フランス人作曲家。コンテンポラリーダンス、演劇、映画、オーケストラ等で作曲家として活動。Noism では『NINA-物質化する生け贄』（'05）、『PLAY 2 PLAY-干渉する次元』（'07）、劇的舞踊『ホフマン物語』（'10）を作曲。シンガーソングライターとして“Aaken”名義で『Circlesong』（'05）、『Hyperbody』（'10）の 2 枚のアルバムを制作。ポルトガルの歌手 Bevinda との共作「Fukaeri」が控えている。近年ではベルリン交響楽団へ楽曲『The Legend of Thanh Giong』を提供、現在は台北を拠点に、映画『When Doves Cry and Like a Thief』やオペラ『Aurelia』での作曲、小説『Hyperbody』等、活動の幅を広げている。



廣川 玉枝 Tamae Hirokawa | 衣裳

2006 年「SOMA DESIGN」として活動開始。同時にデザインプロジェクト「SOMARTA」を立ち上げる。同年「身体における衣服の可能性」をコンセプトにボディウェアシリーズ“Skin”を発表。2007 年 S/S より東京コレクション・ウィークに参加。第 25 回毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞受賞。Canon[NEOREAL]展（2008 Milano）/ TOYOTA [iQ×SOMARTA MICROCOSMOS] 展（2008 Tokyo）/Mercedes-Benz [SOMARTA x smart fortwo “Thunderbird”]（2012 Tokyo）にてインスタレーション作品を発表。YAMAHA MOTOR DESIGN とのコラボレーションで電動アシスト車いす [02Gen-Taurs（タウルス）]（2014）を発表。資生堂総合美容施設「SHISEIDO THE GINZA」（2011）、「CLÉ DE PEAU BEAUTÉ」（2013）の制服を手掛ける。京都の友禅染、西陣織老舗との協業により新時代の和装をコンセプトに [Kimono-Couture]（2014）を発表。ASIAN COUTURE FEDERATION のメンバーに正式加入（2014）。また 2016 年 10 月には国内外初の単独個展「廣川玉枝展 身体の系譜 -Creation of SOMARTA-」を開催し話題を呼ぶなど活動の幅を多岐に広げている。



Noism1 ノイズムワン

www.noism.jp

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する日本で唯一の公立劇場専属舞踊団。演出振付家・舞踊家の金森穰がりゅーとびあ舞踊部門芸術監督に就任したことにより 2004 年に設立。プロフェッショナルカンパニー-Noism1 と研修生カンパニー-Noism2 で構成。Noism1 はモスクワ・チェーホフ国際演劇祭との共同制作や、サイトウ・キネン・フェスティバル松本のオペラ&バレエへの出演など、国内や海外各地で多岐に渡って活動している。舞踊家たちの圧倒的な身体と鋭い問題意識に裏打ちされた作品、新潟から世界を見据えたカンパニー活動は、21 世紀の新たな劇場文化モデルとして各方面から注目を集めている。



井関佐和子（Noism 副芸術監督）



山田勇気（Noism2 リハーサル監督）

Noism⁰¹

Photo : Noriki Matsuzaki, Ryu Endo (準メンバー)



中川賢

池ヶ谷奏

吉崎裕哉

浅海侑加

チャン・シャンユー

坂田尚也

井本星那

西岡ひなの*

鳥羽絢美*

*準メンバー

公演概要

NINA – 物質化する生け贄

演出振付：金森穰

音楽：トン・タツ・アン

衣裳：廣川玉枝（SOMA DESIGN）

椅子：須長檀

オリジナル照明デザイン：金森穰、森島都絵

リハーサルディレクター：井関佐和子

出演：Noism1

中川賢、池ヶ谷奏、吉崎裕哉、浅海侑加、チャン・シャンユー、坂田尚也、
井本星那、鳥羽絢美*、西岡ひなの*、山田勇氣（特別出演）*準メンバー

衣裳製作：SOMARTA

衣裳協力：畑岡株式会社

SOMARTA



主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
共催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 ※埼玉公演
平成 29 年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業



韓国・大邱公演 Daegu Asia Contemporary Dance Festival

2017.10.22 (日) 17:00 *全 1 回

会場：Daegu Arts Center 〈Palgong Hall〉

主催：Daegu Metropolitan City, Daegu Arts Center

中国・杭州公演 第 24 回 BeSeTo 演劇祭 中国開催

2017.11.8 (水)、9 (木) *全 2 回 予定

会場：Zhejiang Concert Hall

主催：中国 BeSeTo 委員会

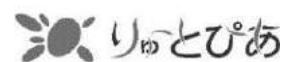
香港公演 City Contemporary Dance Festival

2017.11.24 (金) 20:00 *全 1 回

会場：Kwai Tsing Theatre

主催：香港城市当代舞蹈团有限公司

新潟公演 新潟インターナショナルダンスフェスティバル [NIDF2017]



2017.12.15 (金) 19:00、16 (土) 17:00、17 (日) 15:00 *全3回

会場：りゅうとぴあ 新潟市民芸術文化会館〈劇場〉

入場料：一般 S席 4,000円、A席 3,000円 / U25 S席 3,200円、A席 2,400円

取扱：▶りゅうとぴあ（窓口・電話・オンライン）

チケット専用ダイヤル 025-224-5521（11:00-19:00、休館日除く）

オンライン・チケット <http://www.ticket.ne.jp/ryutopiaticket/>▶イープラス <http://eplus.jp/>（PC・MB）

チケット発売日：N-PAC mate（友の会）先行：10月13日（金） / 一般：10月15日（日）

埼玉公演



2018.2.17 (土) 17:00、18 (日) 15:00 *全2回

会場：彩の国さいたま芸術劇場〈大ホール〉

入場料：一般 5,500円、U25 3,500円（全席指定）*U25は枚数制限あり

取扱：▶彩の国さいたま芸術劇場チケットセンター（窓口・電話・オンライン）

0570-064-939（10:00-19:00、休館日除く） <http://www.ticket.ne.jp/saf/>▶埼玉会館（窓口のみ。10:00-19:00、休館日除く）▶イープラス <http://eplus.jp/>（PC・MB）

▶りゅうとぴあ（窓口・電話・オンライン）

チケット専用ダイヤル 025-224-5521（11:00-19:00、休館日除く）

オンライン・チケット <http://www.ticket.ne.jp/ryutopiaticket/>

チケット発売日：SAFメンバーズ先行：10月28日（土） / 一般：11月4日（土）

※埼玉公演のりゅうとぴあ取扱い分の発売はNPAC先行・一般共に11月4日

※U25（25歳以下）は入場時に身分証をご提示ください。 ※未就学児の入場はご遠慮いただいております。

※開演時間を過ぎますとしばらくの間ご入場いただけない場合や、ご自席に着席いただけない場合がございます。予めご承知ください。

※託児サービス、車イス席等の詳細はNoismウェブサイト、各劇場のHPをご覧ください。

関連企画

公開講座 柳都会（りゅうとかい）vol.17 廣川玉枝×金森穰

Noism 芸術監督とゲストの対談による公開講座。

『NINA』衣装デザイナーの廣川玉枝を迎え、クリエイション秘話や廣川の仕事について話を聞く。

日時：2017年12月3日（日）16:00-18:00

会場：りゅうとぴあ新潟市民芸術文化〈能楽堂〉

公演に関するお問い合わせ

りゅうとぴあ 新潟市民芸術文化会館 Noism 上杉・堀川

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町 3-2

Tel: 025-224-7000 Fax: 025-224-5626 Mail: info-noism@ryutopia.or.jpNoism オフィシャルウェブサイト www.noism.jp

Noism



@noismPR



noism_official